

おじいちゃん、おばあちゃんの子どものころ、青春時代の飛騨高山のこと、どれだけ知ってる？

耳をかたむければ、
まだ、知らない高山が、そこにある…。



飛騨高山MEMORO「記憶の銀行」ワークショップに参加しよう!

MEMORO「記憶の銀行」は、身近にいる60歳以上の方のお話を聞き、
動画にまとめ、インターネットで世界に発信するという活動です。

この秋、飛騨高山でも始まります。

近くにいても、きっかけがないと、なかなか、お話は聞けないもの。だからこそ、特別な場を設けることにしました。
飛騨高山に住む60歳以上の方のむかしの記憶を動画に記録し、未来に伝えるためインタビューと撮影の仕方について学びます。
映像ディレクターでもあるMEMORO「記憶の銀行」代表理事の長島光男が、実際にインタビュー取材をした経験、
エピソードを交えながら説明します。

■内 容

第1部：メモリーシーカー（*）向け

- インタビュアーとして質問をするときのポイント
- インタビュー撮影時の注意点
- インタビュー撮影の体験

第2部：語り手向け

- 動画上映（高山地区の方を含む）
- 飛騨高山で遺したい記憶は？
- 昔の記憶を語ることの意味

■ 対 象：飛騨高山で暮らしている子供からお年寄りまで（親子で、祖父母と孫との参加歓迎）

■ 2014年9月27日（土）1部：午後2:30～4:00、2部：午後7:00～8:30

■ 丹生川文化ホール（〒506-2123 高山市丹生川町町方1 TEL. 0577-78-2468）

■ 参加料：1,000円（親子、祖父母と孫2名での参加も1,000円）当日受付にてお支払いください。

■ 申し込み：メールかFAXで（裏面の申込書をお送りください）

■ 連絡先：MEMORO「記憶の銀行」飛騨高山 MEMORO プロジェクト事務局 担当：金子
ホームページ：http://www.memoro.org/jp-jp/ TEL/FAX：03-3473-6897
電子メール：info.jp@memoro.org

*メモリーシーカーとは…
60歳以上の方の貴重な記憶を
「探して」、「記録して」、
「投稿する人」のことです。